

# 論壇

## 難病に有効な薬は高額

医療費の伸びを見ると、薬の部の伸びのスピードが速いことが目につく。画期的な新薬が次々に出て来て、薬の力で治療するケースが増えているということだろう。過去に開発された薬は2年に1回の薬価改定で値段が下がっていく。その部分についての薬劑費は下がるわけだが、そこに次々に新しい薬が出て来て、それらの価格が非常に高い。だから、全体で見れば薬劑費が増えることにな

る。画期的な薬が開発されることは素晴らしいことだ。例えばβ型肝

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

炎は今や薬で完治できる時代になった。一時的に高い費用がかかるが、長い目で見れば医療費全体を下げるとも期待できる。価格が高すぎるといって話題になったオプジーボという薬も、特定の皮膚がんや肺がん非常に有効であるということ、患者や家族から

は自分で呼吸などができずに死に至るようだ。これまでは治療不可能な病気ということだったよ

## 薬劑費と医療制度改革

ら期待が寄せられている。ゲノム解析など新しい技術が出てくることで、これまででは治療不可能だった難病に有効な薬も出て来た。薬メーカーの人から口頭で聞いた話なので正確に理解しているかは自信がないが、筋無力症という病気があって、この病

気にかかって生まれてくる子供は毎年50人出てくるとしたら、初年

度の患者だけで35億円、2年目以降の患者も含めると薬劑費は50億円を超えるような規模になってしま

### どこまで保険でカバー

それでも、赤ん坊の命が救えるのであれば、これを医療保険でカバーすべきだという意見を持つ人も多いだろう。ただ、問題なのは、こうした難病に有効な薬が次々に開発され、その多くが非常に有効

なら、制度改革を進めるべきである。薬局で購入できるような湿布薬やうがい薬も、病院で処方箋を出してもらうと安く買える。安いといってもそれは全て保険から支払われる。また、ジェネリック医薬品で同じ効能の薬が低料金で使えるのに、値段の高いパテント切れの新薬を利用する患者が多い。どうせ保険でカバーされているのでジェネリックは嫌だというのだろう。画期的な新薬を積極的に導入してより多くの患者を生かすためには、ジェネリックの利用をもっと増やし、薬局で買えるような湿布薬やうがい薬は自分の費用負担で購入してもらおう。薬価や医療制度にメリハリを効かせ

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。